

かわら版 いわしる

集落支援員だより



世界の街から こんにちは②

「岩代は昔話の宝庫。私に物語の種とワクワクをくれる里山です」
～クレア・ブラガンザさん



▲「子どもたちに英語を教えるのが大好き」とクレアさん

「岩代と世界はつながっている」そんな想いから、岩代に縁のある人や岩代で活動する外国人出身の人を紹介しました。

Q 日本に来た経緯は?
理由は色々ありますが、まず日本にはずっと興味をもっていました。日本食も大好きで、着物や茶道などの伝統文化、神道や神話の世界、自然にも惹かれていました。

大学卒業後は一年間ドイツで暮らし、異国に住む楽しさを体験しました。以前、旅行で日本を訪れた時、人々が親切なことが印象に残っていたので、次は日本に住みたいと思い、三年間というALIT講師の仕事に応募することにしました。

Q 岩代の好きな場所は?

岩代地域で私が好きな場所を三つ挙げるとしたら「天狗塚」「合戦場のしだれ桜」「さくらの郷」です。

天狗伝説の舞台の天狗塚からは安達太良山や吾妻小富士が眺められ、夕暮れ時の空や夕陽も美しいです。合戦場のしだれ桜とその周辺は、私にとって桃源郷のような



▲雄大な眺めの天狗塚。クレアさんのお気に入りの場所

クレアさんが生まれ育った英国ハンプシャー州フリートとは? 特徴や近郊の観光地は?

クレアさんの故郷はフリートという人口4万人の小さな街です。英国の首都ロンドンから西南西に電車で約1時間のところにあり、海へも約2時間で行ける場所です。フリートでは毎週日曜日に「ファーマーズマーケット」と呼ばれる市場が開催され賑わっています。レストランやカフェ、古着や中古品のチャリティショップが並びます。幼い頃は「退屈な街」と思っていたようですが、成長した今は、平和で安心して暮らせる大好きな街だそうです。

Q 帰国後の予定や抱負は?

この八月に任期を終えて帰国しますが、大学院で出版のことを学びたいです。外国で暮らした経験や語学のスキルを生かし、イメーজです。夜桜も美しくても楽しいです。さくらの郷には、何度も訪れています。食事はどれも美味しいですが、特に野菜の天ぷらが大好きです。売店で特産物や手作りの工芸品を家族や友人への贈り物に買っています。



▲ライトアップされた合戦場の桜

日本の本を紹介したり、出版関係の仕事に就きたいからです。また物語を書くのが好きで、幼い頃から作家になるのが夢でした。児童や子ども向けファンタジー物語として、天狗とタヌキの男の子が主人公の冒険小説を書いていきます。

私にとって住み慣れた二本松は第二の故郷。いつか家族と再び二本松を訪れ、大好きな場所や人々のもとへ案内したいです。



▲毎週末には日本舞踊の稽古にも励んでいます



▲「フリートからほど近い場所にコーフキャッスルと呼ばれる石造りの城跡があります。丘の上からは田園風景がながめられます。家族みんなで出かけました」

～『さくらの郷』イベント情報～

★5月29日(日)：50食限定！
「オリジナルラーメン販売」
時間：午前10時～午後3時頃

“田舎の未来プロデューサー”として県内の大学生が考案した岩代名物、短黒ローストビーフ入り“モー！トンとこ！拉麵”。こだわりの特製麺を味わってください！

★6月18日(土)～19日(日)
「寒ざらし蕎麦祭り」
第二弾を開催します

時間：午前10時～午後3時頃
※蕎麦がなくなり次第、終了します。



問い合わせ先：「さくらの郷」
☎68-4770



シーン①
蜜ぶた採り

蜜ぶたをナイフで丁寧に薄く削り取る作業に2年生が初挑戦しました

シーン②
分離作業

遠心分離機で蜂蜜を抽出します。手で回す際に蜂の巣を壊さないよう力の入れ方のコツを掴むのがポイントです！



蜂蜜商品「あいさつ坂」のこだわりや特徴は、改めて紹介します！



▲採蜜の時期が少し遅れたため巣がはみだしてこんもり！

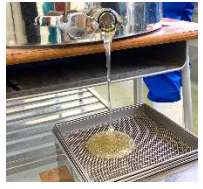
創立50周年&今までありがとう
安達東高校特集②

蜂蜜「あいさつ坂」
採蜜の実習風景を見学しました

安達東高校では約九年前から養蜂をスタートし、糖度八〇%以上の良質な蜂蜜を生産しています。採蜜の実習を見学に伺いました。

シーン③
出来上がり

▼藤の花の蜂蜜は見た目はさらり、味は濃厚でした。花の種類によって香りも異なります



岩代の歴史シリーズ

岩代の道路元標

道路元標とは、我が国最初の道路法(大正八年(一九一九)公布、旧道路法)の施行令により、「道路の起点終点は道路元標の位置によるものとする」とされ、全国の市町村に一箇所ずつ設置することとされました。



▲百目木にある道路元標

福島県では翌年に福島県下四〇一箇所の設置位置が定められました。その後、大正十一年(一九二二)に発布された内務省令により、設置場所設置者、様式、材質などの留意点が詳細に規定され、当時の一二、〇九六市町村に設置がすすめられました。

各市町村間の距離、道路距離、物流面での輸送経費や運賃算定などに運用されてきましたが、昭和二十七年(一九五二)施行の現道路法により、旧道路法は無効となり、道路の起点終点は道路元標とは無関係となりました。

しかし、現行の道路法でも道路の付属物として規定され、現役で息づいています。岩代地域には旧小浜町の他に旧旭村の元標が旧旭保育所入口に現存しています。

旧新殿村は、新殿体育館入口付近に設置されていましたが、残念ながら今はありません。

現二本松市内では十六町村、十六箇の元標が設置されましたが、現存するものは、岩代地域の二箇を含め九箇(小浜町、旭村、二本松町、岳下村、杉田村、石井村、油井村、針道村、木幡村)です。

旧二本松市御免町の緑地公園には、道路拡張など様々な事情で撤去された石井村、杉田村、岳下村、二本松町の道路元標が置かれています。

元標設置後九〇余年を経過し、その大半は様々な理由で所在不明になっており、全国の現存数は二千箇以下ともいわれており、大変貴重な歴史遺産です。

コロナ過でなかなか外に出られない日々が続いていますが、旅先で道路元標を探してみませんか。県内には二〇五箇が現存しております。

※ 参考文献 小泉明正著「福島県の道路元標」、ウイキペディア



▲小浜の交差点に立つ道路元標